



Yonago East Weekly

「ロータリーに誇りを！ 参加しよう そして、行ってみよう」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/木美俊彦 ●幹事/長棟信泰 ●会報/楠 明彦

会員数 93名
(正会員 92名 名誉会員 1名)

今週のお祝い

夫人誕生祝: 20日 井上賢明君
 24日 池淵建夫君
 25日 野坂美仁君

会長挨拶

私事ですが、岡山で緊急事態で徹夜での作業があり朝のやくもで帰って来たばかりで頭が回らない事をご容赦ください。

先週は観月例会でしたので、満月についてお話します。私は月の砂漠をまず連想します。満月が出てピラミッドがありこちらにヤシの木がある風景を連想します。本場の中東圏非常に熱いので太陽は嫌われ過酷な物との印象で、実際は月を愛しているようです。伝統的な生活では、夜に月に照らされた中庭で話し合ったり親戚付き合いをしている様です。中東での月の象徴は満月では無く三日月なのです。もしくは三日月と星が象徴の様で、国旗にも使われています。トルコの国旗が一番象徴されていますので本日印刷したものをお見せします。他にも三日月だけや星だけのデザインが19カ国で用いられています。中東では三日月を愛でている事を紹介して会長挨拶と致します。

幹事報告

- 鳥大医学科4年地域医療体験
李 悠 君、田中智美さん来訪



- 10/6 地区大会出席お礼状 (ガバナー事務所)
- 10/9 観月夜間例会 会員46名、ご夫人7名参加
- 10/20 大山秋の一斉清掃
- 10/23 職場訪問 協同組合レングス (南部町)
- 10/23 新入会員歓迎会 19:00~ (食留芽)
- 10/30 第2回家庭集会 18:30~ (芭蕉庵角盤町)
- 10/30 休会(定款第6条)
- 全国ロータリークラブ野球大会について(参加伺い)
- 例会変更のお知らせ
境港RC 10/22(火) 夜間例会 ビジター受付あり
米子中央 10/31(木) " " " 他

2013.10.20 (日)大山秋の一斉清掃



次回プログラム

- 10/23 職場訪問例会
「協同組合レングス」
- 10/30 休会(定款第6条)



Engage Rotary, Change Lives
 ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

<プログラム>

「フランスから学ぶ今後の企業経営のコツ」

日本銀行鳥取事務所長 大山陽久 氏



私は岩手からこの6月に鳥取に転勤いたしました。実は小学校時代に米子の小学校との文通があり2年間文通が続きました。ロータリーのネットワークで米子の文通相手の田平智久君を探して頂ければ幸いです。

本題に入りますが、私は8年位フランスに駐在していました。経営に役立つ話をいたします。フランスとはどんな国かというおしゃれなあこがれの国のイメージが有りますが実際は農業生産国です。パリから少し郊外に出ると、農耕地が広がる農業国です。EU最大の農業生産国、米国に次ぐ世界第二位の農産品輸出国なのです。皆さんフランスから何を思い浮かべるかと云うと、まずワインが有名ですね。でもワインは葡萄から、フォアグラは鴨の肝臓ですし、シャネルの香水は花びらを加工した物、チーズは牛乳を醗酵した物、エルメスやヴィトン的高级ブランドも元の素材は皮革です。鳥取でも原料から考えると同じ事が可能なのです。それにもかかわらず、フランスは外交力に優れて、G5の一員です。

欧州は、英独仏の3カ国で動かしている。またフランス人はユニークな発想力と調整力で国際機関のトップはフランス人が多いです。「ブランド」とは何か。良品質のものを識別するためのツールで、品質管理の差別化が原点で、ブランド名だけを単にアピールすればよい訳ではないのです。例えばエルメス、ルイ・ヴィトンは品質が約束されているから高くても人気があるのです。日本製品自体が国際的にはブランドです。カルフル日本進出時の仏本社幹部の話に「こんなに消費者の要求水準の高い国は経験したことがない」と云わせる位に日本人は品質にこだわる人種なのです。低品質低価格の競争では無く、高品質でこそ価格競争に巻き込まれないために必要なツールなのです。

フランスから学ぶべきこと。

いい加減＝スピード感があります。権限が少数のエリートに集中(その代わり全責任を有する)メリハリを利かせた対応が可能です。日本のように全てを完璧にやろうとすると、重要なポイントがみえなくなるのです。相手のニーズを的確にとらえたアプローチ(恋愛上手、キーワードは懂れ?)

今後の企業経営のポイント

激動期を迎えた日本経済に、世界レベルの構造変化も踏まえつつ、的確に対応していく必要があります。安部ノミクスで物価上昇率2%とは、どういう世界か?勝ち組で大きな利益が出る企業と、負け組も多数有っての平均で2%の上昇なのです。

正確な情報と、中長期的視野に立った経営判断が重要です。またリスクヘッジも忘れずに。仏事例研究として、ミッシュラン社の新規分野への進出方法が上げられます。現在グルメ本と云えばミッシュランが有名になっていますが、本来はタイヤ会社です。「タイヤ」→「地図」→「旅行ガイド本」→「グルメ本」とリスクヘッジの典型例です。

日本全体のトレンドを踏まえつつ、自社の比較優位性を見極めが必要です。

今後の日本の柱となっていく成長産業は何か。医療・福祉、医薬品・医療機器?エネルギー?などが上げられます。

中長期的なトレンドには、容易には逆らえないのです。

最後に民族ジョークを、世界一幸せな男は、アラブの給料、日本の妻、フランスの愛人、アメリカの住宅、中国の料理、ドイツの車、イタリアの服、イギリスの執事で、反対に世界一不幸な男は、中国の給料、フランスの妻、ドイツの愛人、日本の住宅、イギリスの料理、アメリカの車、アラブの服、イタリアの執事です。今後の鳥取は何処に当てはまって行くのでしょうか。